

No. 1040

1973年回顧版 忘れられた国民

人間としての復権の道をさぐろうと、必死にくいさがる水俣病患者。しかし、彼等に福祉の扉は開かれてはいなかった。そこには長年の犠牲に泣く国民の姿があった。(音一患者発言一)

1973年は、福祉元年と呼ばれ、スタートをきった。(音一第71特別国会田中首相演説一福祉問題一)しかし、現実には、福祉の手の届かぬところで泣く人々の姿をみざるをえなかった。重症患者をかかえる秋津療育園。看護婦の万年不足に園長は頭をかかえる。(音一秋津療育園長一)老人も又、明日と、死の不安に信仰にすがる。異常に拡がったポックリ信仰。老人は、一身不乱に木魚をたたき祈る。何がこれ程までに、老人をポックリ信仰にかりたてるのか。(音一老人インタビュー一)不安の種はつきなかった。全国的規模で拡がった水銀、P C Bによる魚汚染は、国民の食生活に重大な影響を与えた。同時に、沿岸漁民の生活をも奪った。(音一漁民抗議一)

海上封鎖が続き、企業は、操業停止に追いやられた。解決は、第三者をまじえた政治的段階にもち込まれ、水銀、P C Bの使用全面中止という根本的な問題が補償金の額にすりかえられて解決。期待は裏切られた。

頼れるものなど何もない世相に、ギャンブル熱だけがますますあがる。負けを知らない怪物ハイセイコーにファンは期待しダービーを見守る。(音一実況録音一)そのハイセイコーも、期待に応えることはできなかった。(音一第71特別国会田中首相演説一物価問題一)物価安定は、ここでもかけ声に終わり、国民の期待は無残にうちくだけられ、生活防衛にあえいだ。豆腐1丁70円に始まり、全ての商品が大企業の買いしめや価格操作により、のきなみ上がった。昭和26年以来といわれるインフレにおちいった日本。(音一主婦インタビュー一)

年末一時金をむかえ、公労協は、インフレ手当を要求し、ストに突入。国民がインフレにあえいでいても、防衛予算だけは確実にふくれあがっていく。長沼ナイキ基地訴訟で、札幌地方裁判所が自衛隊は憲法違反の判決を下しても、国側はその態度を変えようとはしなかった。(音一山中防衛庁長官訓辞一)高圧的姿勢の中で、公然と既成事実化された米空母ミッドウェイの横須賀母港化。極東アジアの恒久平和のための戦略としての母港化は、不安をつのらせた。相ついで中東情勢は悪化。戦争へと発展した。そしてアラブ諸国の石油戦略に世界は巻き込まれ、日本も、年末に向かって石油危機に直面。(音一二階堂官房長官一)あらゆる面で、国民生活は不安のドン底へ。節電が呼びかけられ、エレベーターは止まり、ネオンも街から消え、石油消費の節約を法律で規制する検討がはじめられた。ガソリンスタンドも日曜は営業停止、ダルマストーブがとぶように売れていく。*節約は美德、と田中首相は発言。対処できない一面をさらけだした。中小企業は、原料不足になき、やけっぱち。(音一中小企業のおやじさんインタビュー一)第72通常国会を前に、突然愛知県知事が死去。早速、田中首相は、内閣改造に着手。そして福田氏があらたに大蔵大臣に就任。予算の規模を縮少すると表明。(音一福田氏就任あいさつ一)角福提携なったものの、このインフレをどうのりこえ、国民の不安をとりのぞいていくのか。国民が生活防衛に必死の中で笑うものは誰か。

忘れられた国民は、そういうまでもだまってはいない。